

## 平成 31 年度の大阪市港区予算編成について

### 1 基本的な考え方

- 区民のつながりの強さや、築港・天保山エリア等が持つ歴史的文化的な魅力、特色やオンリーワンの技術を持つ企業や商店の魅力など、港区の「強み」を活かして、「暮らして楽しい」「遊んで楽しい」「働いて楽しい」まち港区の実現をめざす。
- 大阪市の財政状況が厳しく、区役所に配分される財源が 1 %削減されることから、必要性に応じて「選択と集中」を行いながら予算編成を行う。

### 2 大阪市の財政状況

- 人件費や投資的経費の抑制を図っているものの、税収は低い水準で推移する一方で、高齢化の進展等に伴う扶助費などの義務的な経費が増加しており、通常収支不足は解消されないことが見込まれる。(資料の 5 ページ参照)
- 将来世代に負担を先送りすることのないように、裁量経費については、2 %～1 %マイナスし、予算編成を行うことが大阪市の方針となっている。(資料 6 ページ「3. 裁量経費」参照)
- 少子高齢化が進む中で多様化する区民ニーズに応え、区民の安全・安心を支えていくために、一律の事業経費の削減ではなく、一層の選択と集中に取り組むことを基本として予算編成を進める。